

<2018年3月期第1四半期 決算説明会 主な質疑応答>

日時 : 2017年7月28日(金) 18:00~18:45
出席者 : 富永浩史 取締役 常務執行役員 CSO/CIO
岩本秀之 取締役 常務執行役員 CFO

1Qの営業活動に係る利益の進捗率が31%と高いがセグメント別の状況と2Q以降の見通しは

1Qは受取配当金の影響で通常でも進捗率は25%を超えるが、当1Qは事業も全般的に好調。金属とグロージでは自動車生産の実需が想定以上に強く前年比、計画比共に好調。また、機エネはユーラスが堅調、化エレもカーエレクトロニクス他取引が好調と全般的に好調という感触。アフリカは前期比減益ではあるが、前期の特殊要因の影響。自動車生産を地域別で見ると、アメリカの大型車、中国の減税継続、欧州の新型車(CHR)が収益に貢献した。

2Q以降の為替前提は期初の想定(1ドル105円、1ユーロ115円)で据え置いた。ユーロは今後強まる可能性あるが、ユーロ建ビジネスは限定的であり影響は軽微。為替感応度としては、全ての通貨がドル/円で1円相当動くと当期利益で約6億円の影響が出ると見積もっている。

2Q迄はある程度今の状況が継続すると見ている。

金属本部の1Qは一過性損失無ければ当期利益は100億円程度だが、今後もこの水準が継続するのか

足元は金属市況も需要も当社にとっては全体的にポジティブな状況。少なくとも2Q迄は継続する見込みだが、3Q以降は現時点では不透明

自動車生産関連事業の今期2Q以降について

金属市況も良く、ピックアップトラック等大型車の需要も高まっている。自動車部品の荷動きも活発。2Q迄の生産計画は概ね見えており1Qの好調が持続すると思われる。

金属リサイクルの好調は価格上昇が要因か

主にスプレッドの改善効果

米国の自動車生産台数は前年比頭打ちの状況だが、貴社の好調の要因は何か

カローラやカムリ等の乗用車販売は苦戦しているが、大型ピックアップトラック等の販売は好調が持続。当社の自動車製造事業においても大型車の割合が増えていることが好調の要因となっている。

機エネの営業活動に係る利益が好調な要因について

ユーラスの好調と前期赤字であったガス案件の一部停止や経費削減効果。

化エレのエレクトロニクス+19億円の要因について

ネクスティエレクトロニクスの統合効果もありカーエレクトロニクス分野は好調。スマホ関連、アミューズメント関連も回復基調。

CFAO の自動車販売、飲料、リテールの底打感は出たのか

自動車販売は、資源国であるコンゴ、中央アフリカ、チャド等は引き続き厳しい状況が続くが、ブルキナファソ、コートジボアール等一部の非資源国においては底を打ち始めた。前年のベトナムでの税制改定前の駆け込み需要の反動でアジア向けがマイナスとなったが、それを西アフリカ、マグレブでカバーし、販売全体では略々横這い。

飲料は、コンゴは引き続き高いシェアを維持するも、競合との競争激化の影響が出ている。一方でコートジボアールでの新飲料は順調にシェアを拡大している。リテールは、マイナス基調に変わりはないが、前年比では横ばいになりつつある。

旧 CFAO の 1Q 実績について総括して欲しい

営業活動に係る利益は、84 億円から 63 億円と 21 億円のマイナス。前期固定資産売却益の反動が 12 億円あり、実質の落ち込みとしては、飲料事業の不調を中心に 9 億円程度。

以上